

## 海田町まちづくり推進委員会 議事録(要旨)

開催日時	令和4年12月13日(火) 10:00~12:00
開催場所	織田幹雄スクエア 306号室
出席者等	<p>&lt;委員&gt; (敬称略)</p> <p>池本良教 (広島国際学院大学情報文化学部 教授) …委員長  林孝 (海田町教育委員会委員)  今川朱美 (広島工業大学工学部環境土木工学科 准教授)  山岡崇義 (海田町自治会連合会 会長)  俵尚子 (海田町民生委員児童委員協議会 会長)  川上一望 (海田町公衆衛生推進協議会 会長)  中神裕子 (海田町民生委員児童委員協議会 主任児童委員)  武市浩二 (広島地域協議会 事務局長)  天野博司 (広島市立大学 理事・事務局長)  仙田勝志 (広島銀行海田支店 支店長)</p> <p>&lt;事務局等&gt;</p> <p>西田祐三 (海田町長)      今岡寛之 (副町長)  佐々木智彦 (教育長)      鶴岡靖三 (企画部長)  丹羽勤 (総務部長)      森川雅枝 (福祉保健部長)  久保田誠司 (建設部長)      森山真文 (教育次長)  藤原靖 (企画課長)      森あゆみ (企画課係長)  古谷旭 (企画課主任)</p>
会議次第及び資料	<p><b>【会議次第】</b></p> <p>1 開会 町長あいさつ</p> <p>2 議事 (1) 第5次海田町総合計画及び海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和3年度末時点の検証について (2) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金実施状況及び効果検証について (3) その他</p> <p>3 閉会</p> <p><b>【資料】</b></p> <p>(1) 令和4年度第1回海田町まちづくり推進委員会 (2) 第5次海田町総合計画及び海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和3年度末時点の検証について (3) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金実施状況及び効果検証について</p>

会 議 記 録

事務局	<p><b>1 開会</b></p> <p>定刻前ですが、皆さんお揃いになりましたので、海田町まちづくり推進委員会を開会させていただければと思います。本日は御欠席の方もおられますが、10名の委員の方に御出席をいただいております。それでは開会にあたり、町長から御挨拶を申し上げます。</p>
町長	(町長あいさつ)
事務局	<p>今回より、人事異動等により新たに委員に就任していただいた方がいらっしゃいますのでご紹介の方をさせていただきます。まず、広島銀行海田支店 支店長の仙田委員でございます。</p>
仙田委員	仙田です。どうぞよろしく申し上げます。
事務局	<p>次に、本日は御欠席ではございますが、広島県デジタルトランスフォーメーション戦略総括官の西村委員でございます。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>それでは、本日は、お手元の次第に沿って会議を進めてまいります。本日、お配りさせていただいた資料は、本日の次第、配席表、出席者名簿となります。次に、事前に送付させていただいた資料の確認をさせていただきます。資料1から資料3と参考資料1から参考資料4の7つの資料を事前送付させていただいております。</p> <p>本日、お配りした資料、郵送させていただいた資料で、ないものがございましたら、事務局で用意しておりますので、お知らせください。</p> <p>本日の会議の終了は12時頃を予定しておりますが、適宜、換気を行いながら進めさせていただきたいと思っておりますので御理解をお願いいたします。</p> <p>それでは池本委員長の方で議事の進行をお願いいたします。</p>
池本委員長	<p>皆さんおはようございます。本日は、お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。本年度、昨年に引き続き私の方で会議を進めさせていただきます。さっそくですが議事に入っていきたいと思っております。</p> <p>本日の議事は、今説明のありました次第に記載されていますように1つ目、第5次海田町総合計画及び海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和3年度末時点の検証について。それから2つ目、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金実施状況及び効果検証について。それから3つ目、その他ということで。</p> <p>それではまず1つ目、第5次海田町総合計画等の令和3年度末時点の検証について御審議をいただきたいと思っております。まず事務局の方から内容の資料の説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>(資料の説明)</p> <p>また、本日御欠席の西村委員から事前に御意見をいただいておりますので、この場で御紹介させていただければと思います。</p> <p>海田町におかれましては、データを活用しつつ、ファクトベースでデジタル技術の活用の在り方を模索しながら積極的に取り組まれていると考えています。令和3年度末時点の検証につきましても、成果指標、行動指標のいずれについても、「順調」「やや順調」</p>

	<p>の件数が「やや遅れ」「遅れ」の件数を上回っており、全体的には概ね順調に進捗していると考えています。とりわけ、多くが順調に進んでいる子育て世代に関する施策に関して、成功事例が更に積みあがることにより市内にノウハウと人材を蓄積させ、他の施策へのプラスの波及効果があると考えています。広島県といたしましても、先月策定した「広島県 DX 加速プラン」において、行政と民間の双方において、デジタル投資の促進と人材の確保育成が必要であるとしており、海田町における取組を引き続き支援したいと考えています。なお、どのような施策領域でもデジタル技術を活用した解決策が存在するため、「やや遅れ」「遅れ」の状況にある施策についてもファクトを整理しながら課題を整理し、デジタル技術を活用する余地がないか引き続き検討していただければと存じます。</p> <p>西村委員から以上のように言っていただきました。以上で説明を終わります。よろしくお願いたします。</p>
池本委員長	<p>ありがとうございます。それでは、説明がありました、海田町総合計画等の検証について委員の先生方、皆さん何か意見や質問等を出していただければと思います。</p> <p>冒頭の事務局からもありましたが、新型コロナウイルスのこともありますので、事務局の方で進行中であっても適宜換気を行っていただければと思いますのでよろしくお願いたします。</p> <p>また、スムーズな進行を行いながらも、意義深い会議にしたいと思いますので、意見交換にあたっては、各委員の専門分野の立場から御意見、アイデア等を含めて率直なご意見を幅広くお聞きさせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。各委員の専門分野等から情報提供でも結構です。それでは、御自由な御意見、御質問がいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。</p>
中神委員	<p>資料 2 の 17 ページなんですけども、環境に優しい町づくりということで子どもにとっても高齢者にとっても自然に親しむ環境、公園っていうのはすごく大事な場所だと思います。これ見方がよくわからなかったのですが、この基準値が一人当たり 6.0㎡、令和 3 年度の実績が一人当たり 6.0㎡で変わっていない。目標数に対して令和 3 年度と変わっていないのに進捗状況が順調となっているのですけれども、これは出来上がってはなないけれども、今から作る計画とかはできているので、順調という風に考えられたのでしょうか。</p>
建設部長	<p>部長の久保田と申します。ありがとうございます。言われるように、実際完了した公園はございませんが、現在総合公園の 2 期整備ということで順次公園の拡張工事をしております。このまま順調にいけば、もう間もなく公園の方の拡張ができるということで、今回進捗状況は順調という書き方をさせていただいています。</p>
中神委員	<p>ありがとうございます。</p>
川上委員	<p>はい、川上です。専門分野と言われたから、専門分野の方でちょっとお話をさせていただきます。16 ページの環境に優しい町づくりのなかで、地球温暖化対策の推進という形で緑のカーテンづくりを令和 3 年度が 835 か所で目標を 1,000 か所としておりますが、この令和 4 年度において 1,000 をクリアいたしました。実際すでにマップを皆さんには</p>

	<p>お配りしているのですが、1,037 か所という形で当初目標の設定はクリアしました。というので、私たちはこれに向けて頑張っていきますと。</p> <p>1つ問題提起といいますと基本的にカーボンニュートラルなんです。これ、2050年に実質排出量と吸収量をゼロにしようという形で取組をしているカーボンニュートラルに向けての大きな動きを今しつつある。広島県の環境政策の中にもゼロカーボンという形で、同じように2050年ゼロという形で、全国の中でもこのカーボンニュートラルゼロに向けて、宣言をしているところが多いんです。実質、環境省のデータの中では、人口比率で94.6%がすでに宣言をしている。それで広島県におきましてはですね、7地区4市町、町としては大崎上島、北広島町、この2町が一応宣言をしている。それで、私たちとしては数十年住んでいる町の者としては、こういう宣言をしながらですね、一緒にカーボンニュートラルに向けての取組をですね、相当この辺に力を入れていかないと大変なことになろうかなと思いますので、それについて今後5年10年先の中で何か意見がございましたら教えていただきたい。以上です。</p>
総務部長	<p>総務部長の丹羽と申します。よろしく申し上げます。今非常に耳の痛い御指摘があったと感じております。海田町におきまして、今カーボンニュートラル取り組む考えはあるのですが、では現実にといったところで大きな施策をうていないのが現実でございます。全国的にもカーボンの宣言をされている自治体というのもどんどん増えている状況で海田町といたしましても、海田町にあった手法をいろんな自治体を勉強しながら取り入れていかなければならないというところで、まだ研究段階でございます。委員御指摘のとおり海田町もいずれは、そういった取組をしていかなければならないというのは考えておりますので、公衆衛生推進協議会と協力をしながら海田町のカーボンニュートラルの取組を進めていきたいと考えておりますので、どうぞ御協力の方をよろしくお願いいたします。</p>
川上委員	<p>ありがとうございました。</p>
山岡委員	<p>山岡でございます。2、3点質問を。</p> <p>1つはですね、2ページの特性を生かした基盤整備によるまちづくりの取組、基本的なものを町で計画しておれば教えていただきたい。それから、環境のところで、17ページですね、私が思うのには、空き家等いろいろ発生する。今現在海田町、高齢化が進んでおります。空き家等もどんどん増えていく様に思いますが、町としてはですね、各地域にそういった場所を公園にするとかですね、そのようなところも考えておられるのかどうか。</p> <p>それからもう1つは、東広バイパスもできておりますが、その下を子どもたちの遊ぶ場所にするか、高齢者の遊ぶ場所にするとか色々考えて欲しいという風に思っているのですが、そういったこともですね、この施策の中に入れてほしいと思っております。</p> <p>それから3点目は、18ページですが、賑わいと交流のまちづくり。海田町は昔は祭りとか盆とか非常に大きな行事として、代々伝わってきておりましたが、最近はそのようなものがですね全く伝承されていないと私は思っております。私も自治会関係者ですけども、計画はするんですけども、やっちはいけないと行政や警察などそういったところがどうしてもそういう発言をしてくるので、やろうにもできない。最近ではですね、</p>

	<p>学校、小学校の団体で盆踊りやるというようなことで、やっておりますけれど、町の色々なところの場所で、そういった沢山の行事という、伝わってきたと思います。それと同時に自治会長さんもですね、高齢化しております。私らも、もう高齢化で若い人に譲っていかないといけないのですけれども、そういった人の育成を少しずつやっておかないといけない。今は定年も延長されておりますし、なかなか若い人といっても 70 歳以上ぐらいの人になりますので非常にそういった人を見つけるのも大変な時期にきておまして、取り組んでいく上でいろんな面に援助、協力をお願いしたい。今 3 点言いましたが、よろしくお願いします。</p>
建設部長	<p>まず、空き家の場所の公園がというところでございますが。空き家が出たら基本的に公園にするという考えは基本的には持ってないのですが、実際に空き家が出た場所とか、そういった御要望があればですね、その場所を見て地域の方と話をしながら公園として整備してくのがいいのかどうなのか、その辺は、話をさせていただければと思います。</p> <p>それから、最初の地域の特性を生かした基盤づくりのまちづくりの関係の 1 点目の御質問がよく聞き取れなかったので、もう一度ちょっと教えていただけますか。</p>
山岡委員	<p>高架の下も有効に活用できるような場所にして欲しい。</p>
建設部長	<p>高架の方は、企画部長から答えてもらいます。</p> <p>第 1 点目の地域特性を生かした基盤づくりのまちづくりというところでございますが、ここに掲げておりますのは立地適正化計画を策定しております。これは、町長が申しましたように海田町を中心拠点と地区拠点にわけて、2 軸方式でまちづくりを進めていく。将来に渡って、人口減少が起これないようにまちづくりを進めていく。そういったものでございます。</p>
企画部長	<p>企画部長の鶴岡でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>私の方からは、まず高架下の活用について答弁させていただきたいと思います。高架下については、まちの中心部分というか真ん中にですね、一定程度の土地があるということで、有効活用をしたいと考えております。今バイパス高架下の工事が進んでおまして、結構バイパス高架下の狭い所と広い所、様々であります。新庁舎の前と東の町民センターの周辺については、ある程度の幅がある広い土地の活用ができるのではないのかと見込んでおります。こちらについては、住民の皆様と活用方法についていろいろ考えていきたいと思っております。今御指摘いただきました、緑地といった例もあるでしょうし、新庁舎の前ということになると、またちょっと違った活用も考えられるのではないかと思いますので、そういったことを住民の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。</p> <p>それと続きまして、昔ながらの行事であります。祭りができないというところで、これはコロナの影響で行事を計画しても実施ができなかったというのが、一番大きなところかなと思っております。こちらの 18 ページにもですね、総観光客数というようなところに記載しておりますけど、イベントもできずに地域の行事もできない。人手というところが確保できておりませんでした。ようやく行動制限が解除になって少しずつ</p>

	<p>上向いてきたというような数字が見てとれるところです。今後の町の課題としては、コロナの間できなかったイベントや行事をどのように再開させるか、というところが1つの課題かなと思っておりまして、こちらにつきましては、その住民団体の皆様と一緒にですね、今後も再開の仕方というようなことも併せて話をしながら検討していきたいと考えているところでございます。</p>
俵委員	<p>民生委員児童委員協議会の会長をしております、俵です。空き家であったり、空き土地のお話がでたと思うのですが、この事からですね、今海田町では、すごく活発であってどんどん町が発展している所と、そうでない所。空き家が増えている所と二分化されて、空き家が増えている地区はほんとに大変なことになっているんですが。実は法務局から手続きのされていない土地の相続を良いように進めなさいというお知らせがどんどん届いているところで、それはちゃんと手続きをして、土地活用を上手くしようという国の施策でそうですが、それをもって個人宅にいろいろ普通の自分の土地であるとか墓所もそうなんですが、手紙が届いているんです。それをどうしたらいいかということで相談を受けたりしている。どうしたらええんじやろうかと不安になって思っている方が何人もいらっしゃるということですね。いろんな理由があって放っておく。何代にも渡って相続ができていない土地が沢山あるよ。それをなんとか活用して町を活発にしたというのとはすごく分かるのですが、相続ができてないのはそれぞれに理由があって、家族間で良いようになってないからできないよ。という悩みを抱えていらっしゃるお宅がいっぱいなんですよね。それは民生委員に相談されましても家族間のトラブルまでは中々口を挟めない。うまいことやってと言ってもいろいろな事情があるのでしょうか。令和7年ぐらいから義務化されるんですかね。それまでに今のうち早くしてくださいよというお知らせが来るのはいいんですが、司法書士の方々を世話しますよ、斡旋しますから良いようにやってくださいと一生懸命法務局の方は言われるんです。聞きましたら、何年も前からほっといてあるので、地権者、相続人の数が100人を超える例があると、それを一件ずつあなたに任せるよと言うんで、権利義務でハンコを押してサインして全部もらわんといけん。その手続きがうまくいかないの、なおもほったらかしにするという例があるみたいなんです。だから海田町においても、何とか支援を。こういうやり方があるよとか、アドバイスをする機関を設けていただいたら、皆さんもう少しスムーズに悩まずに手続きができるんじゃないかなと思うところでもあります。今ほんとに手紙が届き始めて皆さん悩みが深くなっておられる方が増えていらっしゃるみたいなので、なんか救済措置を海田町としてもとっていただけたら、気分が楽になるんじゃないかな。100人いたら100人。1人でもハンコを押してもらわないとダメなんです。そしたら、裁判になるんです。裁判をかけて、ものすごい手間とお金がかかりますよね。うまいことスムーズにできるように、救済措置を海田町でもとってあげないと、あと2、3年後ほんとに義務化になっちゃうと大変なことになるんじゃないかなと思います。うまくいかなければ、うちの町でもいっぱい空き家になって草ボーボーになって、それが花粉で飛んで大変なことになっているので、近々の課題だと思います。よろしくお願ひします。</p>

建設部長	<p>御指摘いただいた内容のことは存じ上げております。我々公共事業でも、相続が完了していないということで、権利者が100名を超える事例は過去数回ございます。それには、言われるように、弁護士とか司法書士をたてて、いろんな手法を交えて解決して公共用地を確保することは今まで何度もございます。今言われる、空き家とか個人の事ですよね。基本的にはそこに今、個人の財産の管理について支援をするというのは、今の時点ではございません。個人の資産の管理について町がどこまで入っていくのか、どこまで支援をしていくんかということは、別ではございますが、空き家について申しますと、相談会とか、いろんなことをやっておりますので、まずはそちらで色々御相談をいただければ空き家のことについてはいろんなアドバイスができると思います。あと、言われる支援措置については、現段階ではちょっと、海田町では難しいかなと考えております。</p>
俵委員	<p>ごめんなさい。その支援というのは、解決してあげてくださいというのではなくて、飛び込んで法務局に行ったら、司法書士の会があって、誰かに相談しなさいと言っても、知りもしない訳も分からない司法書士にお願いするのではなくて。例えば、海田町でもこういう支援がありますよ、良い司法書士を紹介しますよ、とかこういうやり方でやるとうまい手順でできますよ。その程度のアドバイスはどうですか。</p>
建設部長	<p>良い司法書士がいますからという紹介はできませんから、国の法務局がやるとところを紹介するとか、そういった形にはなろうかと思えますね。</p>
俵委員	<p>分かりました。</p>
今川委員	<p>この第5次総合計画をなさるときに、アンケートをされていますね。アンケートの結果を今、データを持ってきているので確認したんですけど、この時点で公園整備に対する不満っていうのは挙がってないんですよ。だからおっしゃったように街区公園にあたると思うんですけど、そういったものの整備状況に対して町の方たちは、文句は言っていない。ただし、子どもの遊び場に対してはちょっと足りないんじゃないか。という結果が出でいますので、誰がターゲットかなんですけど、子どもさんが増えてらっしゃる地域に関しては、空き地事業等を踏まえた、街区公園の充足ということの可能性というのは検討なさってもいいかなと。町長が最初にバランスとおっしゃったんですけども、その後アンケート結果を見て、その不満の声が多いところっていうのは、道路整備とか施設整備に係るところが多いんですけど、それに関しては十分努力をなさっているとか頑張っている様子が見られますので、現時点での検証については厳しい遅れがあるという御指摘がある部分もあるんですけど、まあコロナの影響と考えるのであれば、基準点を令和元年にもっていつているのが正しいのか良く分からない。ということもありますので、利用状況等については「やや遅れ」というのは目をつぶってもいいのではないかと私の感じたところでございます。</p>
林委員	<p>専門のっていうことでいうと、学校教育等、生涯学習っていうことになろうと思えますが、順調という形で進んでいる。コロナっていう中で、リモートでやらないといけないということがありましたので、かえってそのことが促進させてくれたという状況があるのではないかと。そのことが5ページのところで、行動指標の方っていうのは結構順</p>

調に推移している。成果指標の方も、増えているっていうのは維持していかないといけないということになるんでしょうけども、今度、行動指標そのものが達成できたというのを考えると、次に考えるのは、質の保証という。それがうまくいくどうかっていう点に目を向けながら次に向ってほしいなと思います。もう1つ、生涯学習という点で、13ページのところ。人数を基準とし、延べ人数が減っていて、遅れという状況。コロナということ、先ほど今川委員もおっしゃられましたけども、コロナ等も考えると人数そのもので考えるというのはなかなか難しいことだろうと思います。人数だけで考えるとやや遅れなんですけど、そこは気にしなくていいのかな。大事なのは、その中でどういうことを進めたか、制限中にも出来ることをおこなった。それを増やしていくというのも、繋がってくるのではないかなと。対面できないからそれをデジタルでやろうとする。そのような形でより発展したということが大事なのかなという風に思います。そのような資料を少し「こんな事ができるようになった」というのを出していただいて、検討材料にできたらいいと思います。

あと3つほど。専門外になるのですが、子どもの健やかな育ちを支えるまちづくりという4ページのところで、保育所待機児童数がゼロということで認識がなかったのですが、私は孫が2人いて、1歳児と2歳児というので、同じ所に預けないと都合が悪いのですが、すぐには入れなかったから少し不満を持っていたのですが、いろいろ配慮してくださって、そこに2人一緒に入れるとこを探してくれて、たまたまそのような中で、気分をそこまで不快にしなくてすんだということでよかったのですが、2人の子どもを別々のとこへ預けて。この前も3人の子供を2人は預けて1人は忘れたまま車の中に閉じ込めたというような事がありましたよね。そう考えると、複数の保育所に分散して保護者が働けるかというとなかなか難しいのではないかな、その辺のところを解消していくような、欲張りな考えですけども、そういうところの施策っていうものを考えていただけると私は嬉しいなと。それが働く人達にとって非常に楽なことになるのではないかなと思います。それが1点目。あと2つあるのですが、6ページのところでインフラ強靱化、災害復興中で概ね順調で喜ばしいことなんですけども、優先順位という点はどうなって考えられていたのかなと。間近で復旧が進んでいない所の方々にとっては、うちはまだかいのというような気持ちになっていると、被害者意識が高くなるのかもしれないと思ったりもしました。最後1点は、災害復旧の意識を高めたりという中で、これは教育委員会会議をふるさと館でやったときにそのところの活用というところを考えたときに、あそこの近くに砂防ダムができて、そのところを見学したりとか、ふるさと館で、また地域を移ってという中で、生涯学習の視点だけでなく防災意識を高めたりとか、セットにしていくようなアイデアというのも考えいくこともできるのではないかと話になっているので、そのような視点から1つの施策に1つの手段をうつのではなくて、まるごとうまいことできるような、そのようなアイデアを出していただけると、よろしいかなと。いいかなと思います。以上です。

教育次長

教育次長の森山でございます、よろしくお願いたします。私の方からは先ほどにもありましたが、学校教育の充実というところと、生涯学習の部分についてお話をさせていただけたらと思っております。

	<p>林委員におきましては、教育委員ということもありまして月に1回の会議の中でいろんな御意見をいただきながら、学校教育、生涯学習を進めているところでございます。先ほど御指摘がありました、行動指標等でICTを活用した事業を実施する教師の割合というのは、これは先ほどもありましたGIGAスクール構想という国の大きな指針のもとに予算措置が行われ、町の中で設備投資も含めてですね、各学校にLAN配線であるとか、それからタブレットの端末が全員に配置されたというところでそれに伴って教師の利用率というのも向上したという現状でございます。先ほどもありました質の担保ということも今後の課題になるということで、令和3年、4年度と使ってきました、教師自身はICTを活用することについて一定程度の技能等は有しております。その中ででてきたのは、先ほどにもございました、例えばオンラインの方法がいいのか、やっぱり対面で話をした方がいいのか、タブレットで記録を残した方がいいのか、ノートでとった方がいいのかとかですね、学習の中身や教材によって方法を選択していかないと、子ども達に身につくかどうかの差が出てくるというところで、やはり本質として学力の向上というところ、子ども達への定着というところに質を置いた方法が選択できるような取組と検証していかないといけないという段階に来年度再来年度に入っていこうかと考えておりますので、こちらを学校教育の元で進めてまいりたいとおります。それから、生涯学習で13ページですけれども、教育委員会等で教育行政に対して評価をするときに、やはり取りやすいということで参加者数、来館者数というところで指標を立てる事が多いです。ただこれもですね、先ほどもありました質というところでいくとコロナの影響で、単純に来館者数で評価することができないという現状がここ3年ぐらい行われている状況でございます。まずは、別の方法で施設等の利活用について効果的であったかというところの方法、実際に参加していただいた限られた人数の中で、満足度がどうであったかというアンケートであったり、評価の方法、工夫。実際にできたことへの評価というところが今後指標として必要になってくるという風に考えております。こちらでもありますね、いろんな他方面、多角的に評価することについて今後検討してまいりたいと思いません。以上でございます。</p>
<p>教育長</p>	<p>付け加えて生涯学習ですが、意外にDXとかそういうのが進む割にですね、うちの企画で一番人気なのがですね、例えば囲炉裏を使って火をおこすとか、竈でご飯を炊くとか、ああいうのが先週あったのですが、人気が出てすぐに定員オーバーなんです。あるいは、先ほど伝統行事のことがございましたが、来週に門松を作ろうがあるのですか、定員達していますとあるのですけど、これ100名なんですけど、意外にも伝統行事であるとか昔の自給的にやるとか、エネルギーとかそういうものに意外に話が多くて、そういう企画をしっかりと今後もですね。どちらもDXの部分と古来のものを考えたら、今エネルギー問題があるのでそういうところに関心がいつているのかなど。しっかりとニーズをキャッチしてやっていきたいと思っています。以上です。</p>
<p>建設部長</p>	<p>私からは災害復旧にあたる順番の問題でございますが、これは平成30年7月災害のことでございますが、災害復旧に着手するにあたっては、まず国の査定っていうのを受けなければいけないのですが、国の査定を受けた箇所から順番にやっていきます。ほぼ同時ですね、個別にするのではなく査定というのはまとめて行いますので、その査定</p>

	<p>を受けたらすぐ同時発注しておりますので、町内で大きくばらつきがあることは基本的にはございません。全てほぼ同時に着手してまいります。今こちらは令和3年度で80%と書いてあるのですが、現時点では国の補助を貰った工事については全部終わっております。あと、国の補助を貰っていない町単独でやる復旧箇所が1箇所だけ残っておりますので、この1箇所も年内には終わりますので、それが終わりましたら被災を受けた箇所について、工事は全部終わります。そういった状況でございます。</p>
<p>福祉保健部長</p>	<p>福祉保健部長の森川です。いつもお世話になっております。先ほど保育所の待機児童の御質問をいただいた件でございます。現在の海田町におきましては、全国的になんですけれども子どもの保育所それから幼稚園、認定こども園等の入所の定員については、子ども子育て支援事業計画の中で5年ごとに定めている状況です。冒頭の町長の話にもありましたが、前計画、現在第2期中なんですけど、第1期の途中から子どもの人口が非常に増えてきたというところで、中間見直しをしながら定員の方を増やしている状況でございます。現在、第2期で2020年から第2期に入っておりますが、やはり子どもさんの増、それから就労されるお父さんお母さんの就労ニーズが高くなっている状況です。特に第2期の計画の中では、これから出産される方、妊娠されている方の約9割の方が就労したい、就労しながら海田町で住みたいという希望がある中で、計画的に海田町の方で0～2歳の子どもさんを中心に定員の方を増やしている状況です。町長説明にもございましたように、238名の定員を増やして、また来年の1月から60人増えますので298名の定員を増やしているところでございます。ただ、やはり0、1、2歳の方のニーズが上がっているのですが、各年の0、1、2歳につきましては新聞報道でも見られるかと思いますが、0歳児については保育士が3人に1人必要です。1、2歳については6人に1人、3歳児については20人に1人ところで各施設の広さに対して子どもさんの受け入れ状況をつくっていただいている状況なんですけど、毎年の入所お申し込みと各施設の受け入れの保育士の数等を勘案しながら、入所の調整をさせていただいているところです。先ほどもございましたように一緒に園を希望される方が非常に多い。それからお仕事の都合とかご自宅の近くをどうしても希望する人、ここでないと、どうしても入れないんだという御希望も増えてきている状況です。ただ各施設のニーズ、それから各施設のキャパ、それから職員数、それから運営状況も加味しながら町としては入所決定をさせていただいているところです。御希望のニーズは叶えることが子育てしていただく中では非常に重要にはなってきますが、各施設の状況等も運営状況等も加味しながら入所の決定をさせていただいておりますので、今後もこの機会に保護者のニーズ、それから各施設のニーズをしっかりと勘案しながら海田町で子育てしたいという御家庭への対応をしていきたいと考えております。以上です。</p>
<p>総務部長</p>	<p>ふるさと館あたりの防災に関して意識の向上ということだろうと思うのですが、ふるさと館のすぐそばに春日神社がございまして、国道2号線から見ても分かるぐらい大きな砂防堰堤ができております。30年7月豪雨で被災されたっていうことをやはり町民の皆様にも記憶に残していくという意味ではふるさと館の近くにそういった施設があるというのは防災教育にもそれを見ながら有効に活用していくべきだなと考えておりますので、またちょっと、そこらへんは今まで発想がなかったものですから、教育委員会</p>

	<p>と話をさせていただく中で防災の方で役立てることについてちょっと考えてみたいなと思っておりますのでよろしくお願いします。</p>
中神委員	<p>町長さんが婚姻率は県内で1番と言われたんですけれども、何らかの原因で別れたり、ひとり親家庭もずいぶん増えているのではないかと思います。母子に限らず、父子家庭もそういう家庭の支援をしていくということは子どもの育ちにもやっぱりずいぶん重要なことではないかと思うのですが、もちろん町としてもいろいろ手立てしてくださっていると思うのですが、その中のことを少しお伺いできればと思うのですが。</p>
福祉保健部長	<p>福祉保健部長の森川でございます。海田町におきましては、1人親家庭の支援ということで、まず、児童扶養手当という制度がございます。まず、届出の前に離婚しようかな、どうしようっていう離婚前相談を海田町でさせていただいております。その中で、見通しをもって夫婦でお話いただいて離婚されるかまず制度を見ていただいて、御家族でしっかり話をさせていただけるようにその相談をしています。その手続きが終わられましたら、こっちの方では、母子父子自立支援員の配置を1名させていただいております。その中で手当のことであるとか就労のこと、その後の例えば町営住宅を御希望されるであるとかの御相談があったら各部署において相談対応させていただいております。また、先ほどもありましたが保育所の申込みであるとか、その辺りも総合的に母子父子自立支援員が窓口になりまして対応させていただいているところです。それ以外にもひとり親家庭の医療費の助成であるとか、その他の手続きの方をさせていただいております。また中には就労、これから就労をする中で、保育士になりたい。それから、介護の仕事をしてみたい。というような御相談がありましたら期間が定まっておりますが、その期間の生活費の足しになるような給付金の手続きもさせていただくこともできますので、その方の就労の御希望に応じた御相談をさせていただいているところでございます。</p>
天野委員	<p>町長さんの話の中で、18歳人口の減少の課題という話の中で、海田町だけではなく広島県全体での課題だと思いますが、1つには、ターニングポイントが3つあって、大学に行く時と大学から就職するとき、結婚するとき。海田町は教育レベルが高いという話でしたから、ひょっとすると他の市町よりも18歳の流出率が高いかもしれません。それは、いいことなのかもしれないです。教育レベルが高いということでそれを好意的にとらえるといかに出てきた人に帰ってきてもらうかという話だと思うのです。大学を出て地元に戻ってくる学生も一定数いると思うのですが、その時に結局、広島帰ってきてどこに住むかという話があると思うのですね。高校生までも育った町に戻りたいと思ってもらえたら結構重要なことと思うのですが、そこら辺を何か、例えば、みんな海田町内の高校に行くわけではないのでなかなか難しい面もあると思うのですが、なにか工夫ができないかと思うのが1つ。</p> <p>あと、県内の大学にもたくさん行かれると思うのですが、そこで県内にそのまま就職させたいと自治体側も思っているし、県も思っている。大学も割と地域に向いていて、地域の事を学ぼうというのは、私は広島市立大学で当然やるのですが、おそらく国公立、私立と割と地域のことに目を向ける事が多いです。大学は思っておられる以上に地域に向いてる。そのときにいかに海田町が住みやすい町だと海田町のいいところを学生が認</p>

	<p>識するかも、実際に就職したときに住む場所を選ぶときに結構ポイントになるかなと思います。それは、その時に住まなくても次のステップとして結婚した時に新居の時にどこに住むかってというのが次のステップにあるのですが、そういったときに結局1回海田町を若者に知ってもらおうかというところにいろんな段階でなると思うんですね。そこにに関して今工夫していることがあるのかという話と、さっきも言いましたけど、結構大学って県の大学は割と地域に割と向いてます。地方創生の関係で地域を教育の場で取り上げることが多いので、そういったところで少しでも知ってもらおうということには、コラボしていくというのも1つの方策じゃないかと思うんです。例えば、広島市立大学だったら、地域から課題を募集して、そこに、行政は直接の対象にはしてないのですが、地域団体の方から海田町のこういう課題を地域の方と一緒に解決してみませんかというテーマがあると学生が地域に出かけて行くという教育がある。これは一例ですが、いろんな大学で地域に出かけてって学ぼうという事を結構やっているの、そういったところにも、目を向けていかれるのも1つ長期的に見ると手ではないかという提案です、以上です。</p>
<p>今川委員</p>	<p>広島工業大学ですけど、うちの学科は早めの段階から海田町にお世話になって、研究活動をさせていただいているので、そういった意味では広く扉を開いてくださって協力的だということ言えると思います。私から気になるのは、成人式です。成人式は中学校単位で集められるのですが、その時の出席率というのですか。戻ってきた子ども達が多いとこかなとどのくらい思っているのかなというのが、大学2年生の時に戻ってきますから、大きなきっかけになると思うんですね。成人式が終わって自分の大学に戻って、その頃から就職を考え始めるので、その時にやっぱり戻りたいという里心をいかに植え付けるかっていうのが大きなチャンスじゃないかなという風に思っていますが、いかがでしょうか。</p>
<p>森山次長</p>	<p>先に成人式の話が出ましたので、そちらの方をお話させていただくと来年度から民法の関係で、二十歳のつどいという名前が変わって実施をするんですが、例年コロナの影響がなければ6割から6割5分くらいの参加率ということで、町には、2校ございますので、300人弱の250~260人の卒業生に対して、6割程度が帰ってきて参加してくれているというところになっております。町の魅力としてコンパクトということがありまして、2校しかない中でまた学校単位でもするんですけど、学校を超えたところで、小学校時代から繋がっているとかもあって、町に対して思いを持っている子たちは多いんだなという印象を私は持っております。以上になります。</p>
<p>企画部長</p>	<p>まずあの高校生までの町民の皆様にとりまして海田町に、愛着を持ってもらうか。これはですね、施策でということではなくて、総合計画で暮らしやすさが実感できるまちというのを目標に様々な施策、様々な分野に取り組んでおりますけれども、そういう施策を暮らしやすさを学生時代にどれだけ感じられるかというところが1つ重要なかと感じております。その中で学生時代に色々経験する学校もそうでしょうし、地域のイベントもそうでしょうし、スポーツもそうでしょうし、そういった方々がそういった時に地域の方々に支えられて、自分たちが様々な経験ができたというところで、おそらく地域に愛着を持ってもらえるのではないかと思います。その中で、本日の山岡会長が言わ</p>

	<p>れたようなですね、伝統のイベントがなかなかできていないといったところが、海田町に愛着を持つきっかけの1つになってくるのかと思います。そういったところで、総合計画に明記しております取組を1つずつやっていくところで、暮らしやすさを実感できてもらえれば、広島にUターンするならやっぱり海田よねと思ってもらえるのが、一番いいのかなと思います。あわせて、冒頭、人口増の中で社会増もあったと思うのですが、代々海田に住んでおられる方は、恐らく多かれ少なかれ海田に愛着もあるんだろうと思うのですが、海田に転入して来られた新しい町民の方、そういった方々にどのように海田を知ってもらって海田に愛着を持ってもらうか、そういうのが今後の課題なんだろうと思います。コミュニティというのが1つのきっかけになってそこから広がって行って、その地域の人に助けてもらうけど、その時が経てばその恩返しをするようなことも繋がっていけばいいのかなと感じているところでございます。</p> <p>それと2点目の研究の場というかですね、大学との連携とかというところですけど、海田町の特徴として小さい面積で人口も限られておりますけど、そういったところがちょうど研究に向くというところもあるのかもしれないし、町長の冒頭でもありましたように、人口増が続いている、ちょっと変わった地域でもあるかと思っておりますので、そういったところを上手くPRしながら、大学の関係の皆様とも一緒になってまちづくり、地域づくりを考えていきたいと思っております。どうもありがとうございます。</p>
町長	<p>もう少し深堀してお話しておきます。大学と要するに自治体が一体型コミュニケーションを図る、そういった機会をどんどんと広げるべきだと思います。それが逆に言えば、Iターン、Uターンに繋がるし、地域の活性化に繋がると思います。本町はたまたま高校が2校あって、それもどっちかと言うと進学校でありますので、先ほど言われた外に出る確率が高いので、しかしながら、ここの分析はできていないのですが、ここはもう少し深堀して、いかに戻ってきたかは、うちの要するに育った人が帰ってきたのか、外から入ってきたのかこういったところはまだまだ分析の余地があると思っておりますので、大学と一緒に研究してみたいですね。そうすることによって、ここの魅力がますますオフィシャルになって、発展に繋がるのではないかと。言い換えれば、暮らしやすさが実感できるまちが達成できるのではないかと考えております。</p>
仙田委員	<p>仙田です。よろしくお願ひします。最後のページのところで、いわゆる就業促進のところでございます。私も4月から着任して、やはり魅力があり仕事があるので入ってくるということもあると思うんですね。住みやすいということもあると思うんですが、そこに自分が希望を燃やして帰ってくる。仕事があるということが大切だと思っております。その中で事業所数がどうなっているのかはあると思うのですが、私も聞く中で、魅力のある企業はどんどん大きくなっていき、やはり手狭になっていってここから出ていく企業も正直出てきております。そういうことを考えていくとやはり今後企業誘致も含めた、場所にもよるんでしょうけども、企業がここに根付く様なそういった団地ではないですけどもそういった場所を整備していくことも大事ではないかという風に思っております。</p> <p>それともう1点、話が脱線するかもしれませんが、これだけ人口が増えてきますといわゆる下水道とかそういった整備も大事なのかなと思っております。私どもの店も昭和</p>

	<p>中町の方に店があるのですが、尾崎川水域を使うところは、水害がこの夏も起こっている。人口が増えていくがゆえに、そういった整備も大切なのかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。</p>
企画部長	<p>私の方から企業誘致の関係で答弁させていただきたいと思いますが、経済センサスや国の統計で見ますと、企業、事業でありますとか、就業者でありますとか教育部門でありますとか医療福祉の部門で増加傾向にあるという結果が出ております。暮らしに直結したようなサービスみたいなものが、海田で新たに起業されるとき、そういったことが結構多いのかなと感じております。今仙田委員さんから御提案いただきました、大きな事業所の企業誘致。当然事業所としては望ましいことありがたいところであるんですけど、なかなかこの限られた敷地の中で、それだけの土地というのが確保できるのはどうかというところはあるんですけど、当然その企業が大きくなって町からでることになったときには、その跡地をどのように活用するのかというのが1つ課題かなと思いますので、御指摘の企業誘致の件も取り組んでいきたいと考えております。ありがとうございます。</p>
建設部長	<p>私の方から、下水の整備、雨水でございますね。大変御迷惑をかけて申し訳ございません。御指摘のとおり、まずは尾崎川のこのポンプの調節が解決の第一となっております。それについては、申し訳ないのですが広島県の事業になっておるので、早期にやっていただくように町長を中心に毎年何回も要望はさせていただいております。少しずつではありますが、今進んでおります。ポンプの増設については、もう少しちょっと待っていただきたいと思っております。それと県の事業とは別に町で、雨水管理総合計画と言いまして、雨水の道路冠水、浸水がある地区でそういったところを、町の中でどういった形で解消ができるのかという計画を策定しております。尾崎川の排水機場の増設と雨水管理総合計画の2本立てで海田町の皆さんの浸水対策の方を我々はしっかり頑張っていきたいと考えております。</p>
町長	<p>浄水の方ですが、水道水ですね。これも本町で水道事業をおこってきておりますし、先ほどの水道事業を企業化しておりますが、下水の方も一緒に企業化する形で進めながら皆様によりサービスが届くように独立させた機関にしておりますので、要望にあるようにそういったことにならないようにしっかりと努めたい。</p>
池本委員長	<p>今、仙田委員からは仕事の間ですね、それから下水の整備。自分の仕事の関係ですと、働く側でなにか御意見ございますか。</p>
武市委員	<p>ちょっと働く者の代表として、実は労働力は軒並み下がってきております。今働いている人は、大きな企業では定年が70歳、当然そこまでは会社の契約ではないんですけど70歳定年にしていこうということになっております。それと同時に男女共同参画を進めて女性の力も借りていこうと。結局は労働力が足りないところを穴埋めしていこうと施策が進んでいるのですが、それでも足りない状況です。今極端に進めているのは、外国人労働者を借りよう。もう既にものづくりの現場では本当に多くの外国人が入ってきていますが、将来になると様々な産業に入ってくるかなと思います。やはり、こういうことを考えると、海田町にも物づくりの企業っていうのは沢山あると思いますの</p>

	<p>で、やっぱりまちづくりをしていく中で、そういった将来を見つめた整備もあるいは必要なのかなと思います。それと、もう1点が環境の面ですが、カーボンニュートラルゼロということで、自動車関係の事業では物づくりの中身が変わっております。現在車で3万点ぐらいの部品を使っていますが、それがEV化になると半分以下の部品点数になるということは、今あるこの海田町の自動車関連の企業も無くなる。もしくは作るものが大きく変わっていく。そういったところでは、先ほどの企業誘致ではないですが、そういったところも今後支援をしていかないと大きく町が変わるのではないのかと思います。今皆さん御存じのようにEV化ということがございますが、この後には自動運転という技術が入ってきます。これは皆さんが思っているより早くやってくると思っております。技術的には5年以内には可能なレベルには来ているのかなと。そうしたときにやはりまちづくりの中で、道路整備とか様々な整備もこういった自動運転とかEV化を見据えたそういった整備をしていかないと、後追いになると、更に費用が掛かってしまうと思います。今回の計画とは別として5年後10年後に変わってくるということを頭の隅っこに入れてもらって、やはり町民のために行政として動いていただきたいなと思っております。以上です。</p>
<p>企画部長</p>	<p>町内の事業所との連携した、一緒にまちづくりとして聞かせていただきました。今後大きな変革を想定される中で行政もついていくためには、やはり地元の事業所の方と、情報交換をしながら町としてできることは積極的に取り組んでいくということが大事なのかなと思います。最近で言いますと、コロナ対策ということで、町としてもこれまで事業を継続していくための応援金を出してきたんですけども、いかに言っても、規模が小さくて個人事業主さんとか、人数の小さい社員さんの少ない事業所さんは手が挙がるのですが、比較的大きなところはなかなか町の施策ではという様な感じでなかなか手が挙がらなかったということもございました。その中で、町内の事業所さんと意見交換もさせていただきながら、今後の取組としては少し大きな事業所さんにも手を挙げてもらえそうな取組も検討しながら、町内事業所さんの支援をしていきたいと思っておりますので、今後ともいろんな情報交換をしながら町としてできることをする。そして、時代にあったようなまちづくりを進めていければと思います。ありがとうございました。</p>
<p>総務部長</p>	<p>今ちょっと自動運転という話がでたので、これは今すぐどうのこうのという話ではないのですが、将来を見据えたということで、我々も公共交通の方で、色々運行するにあたり今循環バスを回しているんですが、バスの運転手が運転する形ではなしに、そういった自動運転で町内を回すということを考えていかないといけないなと常々町長と話をしていてございまして。今後、そういった道路整備もあるでしょうけども、そこらへんも関連しながら公共交通を発展させることによってまちづくりが進んでいくことがありますので、そこは引き続き整備ということで続けてまいりたいと考えております。</p>
<p>町長</p>	<p>求人倍率の話もあるかと思っておりますので、本町はこういう形で、2022年はまだ途中ですので下がっていますが、労働者人口の提供という形のもの、本町では今備わってきているのではと思っております。以上です。</p>

池本委員長	<p>そのほか委員の皆様から何か御質問も含めて御意見ございませんか。</p> <p>ここで、1つ目の議題については一旦終わりということで、次の議題に移ります。</p>
事務局	(資料の説明)
池本委員長	<p>ありがとうございます。新たな課題ではありますが、事前のお配りいただいた資料がありますが、委員の皆様それぞれの関連する分野を御覧いただいているかと思いますが、何か御質問や御意見ございましたらお願いいたします。</p> <p>この議題については、直年度の事業実施が来年度に向けての動きに繋がっていくものと考えられます。また改めて事業の方向性がでてきたら、またこの委員会に情報提供していただければと思います。</p> <p>よろしいでしょうか。一旦、このような事業が進められてきたということで、御了解いただいたという理解でよろしいでしょうか。</p> <p>次の議題に移らせていただきたいと思います。その他について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	(資料の説明)
池本委員長	<p>ありがとうございます。これについても、事前に資料配布されていたかと思います。委員の皆様方、何か御意見や御質問はございませんでしょうか。</p>
川上委員	<p>1点だけよろしいでしょうか。海田町に不足しているのは何かといいますと、防災機能センターというのがない。この前自治会で、熊野町に視察に行ってきました。熊野町については、防災センターが3か所ある。海田町は、先ほどの話にも出ていましたが、そういうことを1つ将来的な考えていくべきではなかろうかと思います。それともう1つは、海田東地区の今度の整備。素晴らしい案。私は海田東地区なんで大いに賛同していきたい。その中で聞いてみたいのが、何年か前に今の畝橋はあまりよくないので新しい畝橋を架けるとい話。その後の動向はどうなっているのかなということと、もう1つは県の強靱対策の中で広島県の砂防ダムを増やして行って、助けましょうという中で西部建設事務所の方が、畝地区のところに今砂防ダムの森川を造ろうということで動いております。それらについて状況が今後どのようになるのか、もし分かれば教えてください。以上です。</p>
企画部長	<p>それでは、1点目の地区拠点施設の方の防災機能の件でございますけど、やはり町民の皆様も防災の関心が高いところかと思えます。我々が考えているのが、平時はこのような使い方をして、いざというときには、そういった防災の拠点になるような施設になればと考えております。避難する道すじでありますとか、新庁舎の代替機能といったような町全体のことを考えながら、この地区拠点施設の防災機能について具体的にはこれからですけども、考えていきたいと思っております。</p>
建設部長	<p>私からは、新畝橋と砂防堰堤の2つについてお答えいたします。まず新畝橋については、現在設計中でございます。設計でも何段階かあるのですが、端的には設計中でございます。その設計が終わりましたら、工事に入ってまいります。その設計があと2年ぐらいかかると思いますので、それが終わり次第工事に掛かってまいりたいと考えており</p>

	<p>ます。それから砂防堰堤については、県の方が測量に入っておられますし、多分自治会でも回覧板が回っていたと思うのですが、12月から実際に現地の測量に入ることをお知らせしておりますので、それが終わり次第、県の方の砂防アクションプランでも工事をする箇所を位置付けていますので、それは着々と進めていただけるものと考えております。</p>
川上委員	<p>ありがとうございました。</p>
中神委員	<p>海田町の強みの1つは、小中学校から図書館教育に力を入れていることと、生涯学習としての図書館が機能していることだと思うんです。こちらのアンケートの方でも読書や勉強のできるスペースの提供があるということや、それから誰でも学ぶ生涯学習活動の拠点機能とかでているのですが、もちろんそういった図書館はきちんとありますけど、川を隔てて、川を越えていくというのは結構大変なものがあるので、だからもう1つそういう機能を備えたところがあるといいなと思います。キッズスペースとか自習室とかそれからカフェを併設しているようなオシャレな図書館があるといいなと思います。海田町というのは、そういうカフェみたいなのは少ないですよ。だから若い子たちがちょっと集まって話をしたりとか、そういうところをもっとあると、若い人達も外に出て行って、帰ってきたときにそこでみんなで話してほっとしたりとか、そういうがあるので、良い町だなと思えるのではないかと思いますので、ぜひそういうスペースを考えていただけたらと思います。</p>
企画部長	<p>事務局からの説明にもありましたけど、複数の世帯が集まるというのがコミュニティに繋がるのではないかと仮説を立てております。そういった中で、学生さんとか子どもさんも行ってみようと思える施設になると、今のご提案をいただきました、勉強スペースであったり、図書機能とかそういったところが重要なんだろうと思います。町内にいる図書館と各施設にある図書コーナーもありますけど、そういったことも踏まえて新しい施設にどういったものが似合うのかというのを今後具体的に考えていければと思います。ありがとうございます。</p>
池本委員長	<p>そのほか委員の皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうかね。それでは本日に用意された3つの議題については、審議を終結していただければと思います。その間、総合計画を策定してすぐにコロナの影響を受け、いろんな計画が進まないということでありましたけど、それでも日数や回数とかの点ではなかなか成果が上がらなかったことだったかと思います。ただその中でも、なんとか事業実施されている、またいろんな工夫をして継続を図っているということは評価できることだと思います。今日はいろんな具体的な御意見が出されていたわけなんですけど、例えば数や人数ではなく質をどのようにされたかというところは今後繋がる重要なことでもありますし、同じ質という言葉が使われますけど、例えばお祭り伝統行事、地域の行事をどう継承するかということについても、たまたま今年の終わりに世界無形遺産の日本の冬物と言われるお祭りの分野とか、再登録されたという全国的に20数件か登録されました。広島はなかったかと思いますが、やはりあそこでも問題にされていたこと、また審議の中でも触れられていたことなんですけれども、やはりどう継承するかということが世界無形遺産に登録さ</p>

れるところでも大きな問題になっている。広島にも登録された花田植なんかもそうなんですね。あれも当初から後継者をどうするか、どう継承していくのかが、大きな課題にされていたことなんですけど。去年今年にかけて、町内もそうだと思うのですが、県内色々な所でなんとか規模を縮小して開催するとか、それから後継者を育成しながら継承していくということをかなり意識した、十分の本来の規模のお祭りにはならないけれども、今後に繋げる方向で取り組まれていっている。それでもやはりできないところもあるみたいなんですけども。質をどう最小限維持していくのかという、そういった方面も海田の祭り、海田出身の勝丸さんもよく言われるんですけど、頂載（ちょうさい）ですとかね。昔のことをよく聞かされていることがあったんですけど、なかなか動かせない。やはり海田町出身の若い人の世代も 30 代の方たちにも記録はまだまだあるということもありますので、そういう方を含めた形で知らない人たちもどのように関わっていくか、学校教育との連携のあり方も関わってくることだと思いますし、いろんなことにコロナの影響を受けながらも、なんとか先を見越した動きをつくるべき状況が出てきたという風に思われます。もう一つは、これまで本町でも言われていますけど、なかなか全体的に思った通りに進まない分野の特徴ともいえるのかもしれませんが、昔と違って、いつこういったものを実現するんだと、さっきの自動運転でお話も出していただきましたけど、そういうことが見える時代でもあります。またそれが、以前はいつになるかわからんという言い方だったのが、今ではもう 10 年先という風に計画立てられ、数年で実施され実用化する。そういった将来のことを、今どう取り組むかということも意識を置いた事業化、それに若い人がどう取り組んでいくかという、働く人たちも含めてそういったことも必要だと思います。委員会では触れられてこなかったんですけども、男女共同参画とか、逆に労働者のことについて今後ちょっと難しい側面も出てくるのかなと。外国人労働者については、円安が続いているということ、出身国の賃金水準が上がってきている。これはかつて中国に日本の企業が進出していった時もそのようなことが起こっていた。同じことが繰り返されている気がするんですけども、技能実習生を含めて日本離れが今進みつつあるということが、大きく国の中で問題として取り上げられるようになってきました。その現場の中にもそういったことがでてきているところもあるのではないかと、そういった働く人、外国人を含めた働く人達の在り方も今後も細かく見ていくべきことも出てきているかと思えます。いずれにしても今回取り組んできた課題それから新しい課題もございます。そこについては、役場の人も適宜情報提供していただきながら、委員さんの皆様方も、町の資料を含めて、地区の皆様も専門分野だけでなく、トータルな視点でご意見を交換していただければと思っております。まとめではないですけど、以上で本日の委員会を終了させていただきたいと思っておりますけども、最後に事務局の方から何か連絡事項等ありますでしょうか。

事務局

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、又、率直な御意見をいただきまして、ありがとうございます。本日、いただきました御意見につきましては、町でとりまとめをさせていただきます。参考にさせていただきますながら、今後の施策の推進に活かしてまいりたいと考えております。

以上でございます。ありがとうございます。

町長	今日はありがとうございました。お礼を申し上げたいと思います。それと、この資料についてお家に帰られてまだまだ意見がありましたらどんどんと意見を寄せてください。それを今後のまちづくりにしっかりと活かしていきたいと思います。よろしく願いします。
池本委員長	ありがとうございました。それでは、本日の委員会を終わりとさせていただきます。どうもありがとうございました。